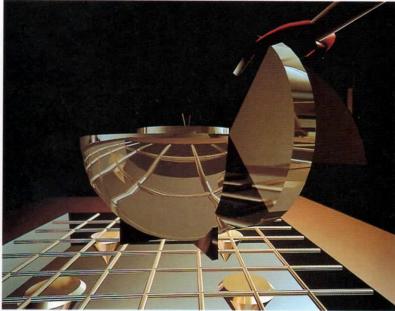
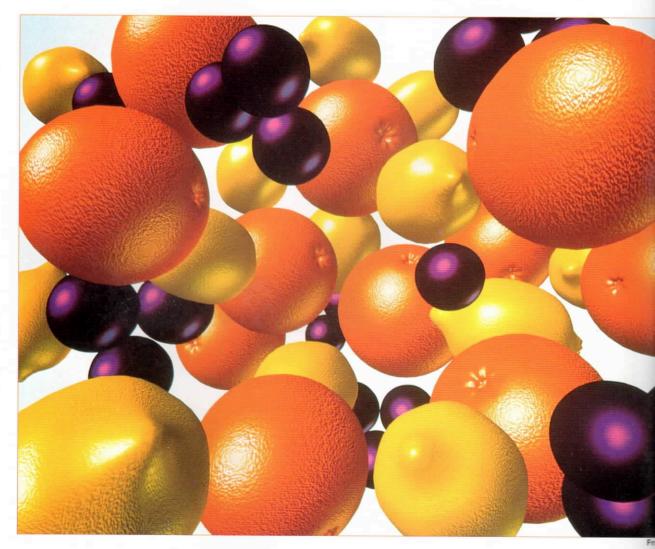
SHELLEY LAKE

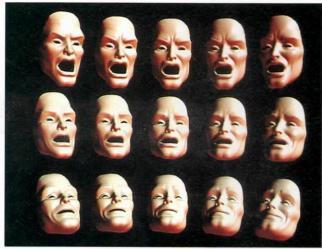






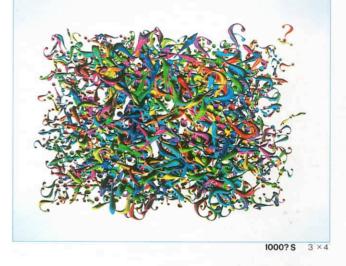






Millenium 3 × 4









ENNY FARRELL

הונוקר

ファニチャー・アーティスト

って家具をデザインすることは、彫刻家としての自分自身のトングの副産物になっている。空間で動く形によって定義される されらに対する彫刻的な関心が要素となって、それを通じて僕 ウなイリュージョンと、幾何学的な抽象との間に会話をつくり 思っている。そして、ぼくは様々なラミネートやラッカーを使 面間の相互作用を発展させて、それぞれの場所に独自の姿とい ものを創ろうとしている。それがユーモアのあるものであれ、 ったものであれ、皮肉っぽいものであれ、どんなものであって 曲自の姿というものを、だ。 My furniture designs are an outgrowth of my training as a sculptor. The sculptural concerns of forms moving in space, and space being defined by form, are parameters through which I attempt to establish a dialogue between functional illusions and geometrical abstraction. In addition, I use various laminates and lacquers to develop interactions between surfaces to create an attitude for each piece, whether it be humor, formality or irony.



SHELLEY LAKE

コンピューター・アーティスト

[シェリー レイク]

アメリカにはひとつの劣等感がある。かつてテクノロジーの世界では リーダーシップをとっていた私たちアメリカ人が、いま世界的なマー ケットの中で急速にその足場を失いつつあるという劣等感である。ア ーティストとして、そしてテクノロジーに関わるビジネスウーマンと して、私は多くのコンピューター・アレルギーの人たちに出会う。そ ういった人たちとは数え切れないほど話をしてきたが、会話はきまっ てテクノロジーの最新の成果ともいうべきコンピューターを毛嫌いす ることについての、彼らの自己弁護となる。コンピューターが絶対不 可欠なものであるという認識は、誰もが抱いているにもかかわらず、 皆その力に圧倒され、そして自分の理解力のなさにいっそう畏怖の念 を持ってしまうのである。

私たちはことコンピューターを、戦争の道具として考えてしまいがちである。クリエイティブなパートナーとして、このコンピューターがどれほど素晴らしい可能性をもっているかについては往々にして気づかないのである。私たちの大半は、コンピューターを完璧性の権化として見なしており、いつの日か、これが独立して個人の人格をもつようになるのではないかと恐れるのである。コンピューターを人間と等しいものとする考えは多くの人を驚かせるが、コンピューター・サイエンティストや心理学者にとって、人工知能というものは、次の時代に移るにあたって最も重要なものなのである。

英語では偽造、模倣、にせもの、模造品、人工、もくろみ、みせかけ、 非現実、模造等と結びついていて、その合成物を悪いものとせずに表 現する言葉がない。私たちの辞書は連想されるものを表現する方法に 欠けているのである。

テクノロジーは常に、それ自身が文明の実質的な対象物と関わってきた。コンピューターは実態のない精神的な領域とクロスオーバーすることを約束し、テクノロジーそのものの意味を再定義した。不安を愛に置き換えれば、コンピューターをよりよく理解することにもなろうし、そこからまた私たち自身をさらによく理解することもできるだろう。



America has an inferiority complex. Once the technological world leader, we are quickly losing our foothold in the global marketplace. As an artist and businesswoman who works with technology, I encounter many computer naive people. It is startling to think of the countless conversations I have had with those on the defensive about their aversion to technology's latest achievement, the computer. Although everyone recognizes the immense importance of the computer, we are terribly frightened of it's power, and more terrified by our lack of understanding.

We are inclined to look upon the computer as an instrument of war, unaware of its profound and awesome potential as a creative partner. Many of us see the computer as a model of perfection, and we fear the day when computers will attain independence and personal identity. The thought of the computer as a human equivalent frightens most of us, but for computer scientists and psychologists, artificial intelligence is of the utmost importance as we move into the next decade.

There is no word in the English language to describe the synthetic without being plagued by associations of the conterfeit, pretentious, ingenuine, imitation, unnatural, contrived, superficial, unreal, fake, etc. Our dictionary lacks a way to describe an artificial life without carrying the baggage of negative associations.

Technology has always concerned itself with material objects of civilization, the computer promises to cross over into an intangible, spiritual realm, redefining the meaning of technology itself. By replacing our fears with love, we may better understand the computer, hence better understand ourselves.



AMERICAN POP CULTURE TODAY VOL.2 by USSO

